

門司メディカルセンター 地域医療連携室だより



診療科紹介

眼科

～地域密着で親しみやすい眼科を目指します～

平素より近隣の医療機関の皆様方には当院の診療にご理解、ご協力をいただき誠にありがとうございます。2026年度の眼科は、常勤医師1名、視能訓練士1名、看護師1名（交代制）を基本体制として日々の診療を行っています。他に週3日医師事務の業務補助が付きます。外来は平日月～金曜の午前に予約再診、新患を11時まで受け付けています。週1回金曜午前は、産業医大からの非常勤医師との2診体制です。新患や予約外の患者に対して細かい人数設定がなく、病院の規模として紹介状無しでも受診可能であるため、受付時間内に多くの方が集中して来られた時は、特に待ち時間でご迷惑をおかけする場合もあり申し訳ございません。午後は、月・水曜に手術、火・金曜に外来処置や特殊検査、手術説明を行っています。平日午後に視能訓練士が行う予約検査（視野、術前検査など）も並行して行っています。

2025年度の眼科入院数は298件で、大半が白内障手術目的でした。入院は、急性期病棟と地域包括ケア病棟の2か所でベッドの空き状況に応じて受け入れています。白内障手術で日帰りの設定がなく、全例1泊又は2泊の入院で行っています。両眼治療希望の場合は、片眼ずつ2回の入院での治療となります。他の診療科と協力して、糖尿病コントロールや抗がん剤治療、血液透析等の個別の事情になるべく扱うように心がけています。全身麻酔での手術も可能ですが、当院では硝子体手術や緑内障濾過手術等を行っていないため、白内障自体が難症例である場合は、合併症へのバックアップの体制のある他施設へ紹介させていただいています。外来治療では、マルチカラーレーザーによる網膜光凝固術、YAGレーザーによる後発白内障手術、抗VEGF薬の硝子体注射を主に行っています。硝子体注射の採用薬は現時点でラニビズマブBS、アフリベルセプト、バビースモ、アイリーア8mgの4剤です。（一部患者限定使用）

最後に余談ですが、最近NHKで門司港が舞台のドラマが全国ネットで放映されており驚きました。今後も門司港地区の総合病院唯一の常勤眼科として、地域医療に貢献できるよう尽力してまいります。ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



眼科部長 太田 美和子（前列左）

門司メディカルセンター「メディカルフェスタ～病院イベントの日～」を開催しました

毎年恒例の「メディカルフェスタ」を5月16日（土）に開催しました。晴天に恵まれ、約250名のご来場をいただきました。

院内1階・2階フロアでは、血圧・血糖測定、血管年齢や肌うるおいミニチェックなどの健康チェックができるブースが設けられ、チェックを受けた方からは、「実年齢より若い」や「去年より身長が縮んだ」など一喜一憂の言葉があふれました。インボディ測定など普段できない測定などをされた方からは、楽しかったので来年も来たいとの声がありました。

また、リハビリテーション室では、当院の3名の医師によるミニ講演会が行われました。1人目は、副院長・整形外科部長の大西英生先生による「痛みとサヨナラ！人工股関節でもう一度、行きたい場所へ」。2人目は、脳神経外科・脊椎脊髄外科部長の酒井恭平先生による「その背中への痛み我慢しないで！～椎体骨折と骨粗鬆症治療～」。3人目は、循環器内科の畠田大樹先生による「不整脈と脳卒中～検脈で早期発見！！～」。講演を聴かれた方から、たくさんの質問が出るなど、熱気を帯びた講演会となりました。講演後、先生に診てもらうにはいつ来ればいいですかなど、医師と患者のコミュニケーションの大切さを感じさせる場面もありました。

屋上広場では、園児による「古城勇太鼓」の太鼓演奏が行われ、子どもたちの天にも届くような力強い演奏が会場を盛り上げました。

院内各所で当院看護師やスタッフと来場者とのふれあいがあり、病院が笑顔あふれる1日となりました。



♥ 「患者サポートセンター」をご活用下さい ♥

入退院支援・患者サポートセンター 体制

- (センター長) 大西 英生
- (医事課長) 三宅 仁史
- (看護師長) 古賀さとみ
- (地域医療連携室事務) 香月洋平 上田英理子 川野美穂 小山真純 本田美穂
- (MSW) 桂川陽子 前原知香 大石夏喜
- (入退院支援看護師) 野副可奈子 岡本紀美子 柴崎直子



〒801-8502 北九州市門司区東港町3番1号
TEL：093-332-7616（連携室直通）
093-331-3461（病院代表）
FAX：093-331-3466（連携室専用）
PHS：093-332-1250（連携室担当看護師）

